

項目	観点	教科書名			
		新しい保健体育(2・東書)	中学校保健体育(4・大日本)	保健体育(50・大修館)	中学保健体育(224・学研)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるために、どのように配慮されているか。	・口絵では、スポーツのもつ力やスポーツを支える人を取り上げ、体育理論の章末資料では、スポーツライフの過去・現在・未来の視点についての資料を充実させるなど、生涯にわたってスポーツに親しみ続ける気持ちを高めるような配慮がなされている。	・スポーツの戦術とその学びについてイラストや写真で示し、自ら行うスポーツに対する目標の決定や学び方について考えていくよう配慮されている。 ・体育編の「トピック」では、今後も運動に親しみ続けたいような話題を取り上げている。	・スポーツの技術や戦術を身に付けるための学び方をイラストや発展資料で示し、効果的な学び方を考えることができるよう配慮されている。 ・体育編の「コラム」では、本文の理解を助け、運動に対する興味・関心を高める話が紹介されている。	・多様なスポーツの学び方の例をイラストで示したり、情報機器を活用したりすることで、練習の仕方の工夫について理解が深まり、さらに運動への関心が高まるよう配慮されている。 ・体育編各章の扉を2ページと充実させ、章の導入段階から運動やスポーツへの興味・関心を高めることにより、生涯スポーツにつなげようといった配慮がされている。
	○健康の保持増進のための実践力を育成するために、どのように配慮されているか。	・ストレスの原因やそのストレスからおこる影響とその対処法について資料を多く提示し、正しい対処法やコミュニケーション能力を高めることの大切さなどを学ぶことができるよう配慮されている。 ・学校や地域、そして国が私たちの健康を支えていることを資料でわかりやすく示し自らの健康の保持増進について考えることができるよう配慮されている。	・ストレスの原因やその対処の仕方について示された資料から、ストレスに適切に対処することの大切さについて考えることができるよう配慮されている。 ・学校保健や地域保健のしくみについて資料で示し、健康を保持増進するために、どのようにすればよいかを考えることができるよう配慮されている。	・ストレスの原因やその対処の方法についてイラストで示し、心の健康が自分の体の健康に繋がるのが理解できるよう配慮されている。 ・地域の保健活動、民間や国際機関の保健活動を多くの写真を使用してわかりやすく示した内容となっている。	・ストレスの定義やその対処法などを具体的な資料でわかりやすく示し、自分自身がどのように対処していくことが適切なのか判断できるよう配慮されている。 ・健康を守るために行う支援活動やボランティア活動を世界的な視野に立った観点で紹介する写真を示し、自らの健康の保持増進だけでなく、自分にできることは何かを考え、実践的な能力を身に付けることができるよう配慮されている。
	○体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるために、どのように配慮されているか。	・体育理論学習では、各章で学ぶ課題が示されており、スポーツや自分の体力について、関心が高まる内容となっている。 ・体力の要素や体力を高める運動例が示された資料から、運動や体力向上の大切さを知り、体力を高める運動計画づくりに役立つよう配慮されている。	・スポーツの効果や体力の意義が示された資料から、体力の向上の大切さを学び、今後どのように変化させていくか考えるよう配慮されている。	・体力を高める運動計画例が資料で示され、体力テストの現状を踏まえ、明確なねらいにそって運動計画が立てられるよう配慮されている。	・体力測定と体力について考える資料を多く活用し、日常生活だけでなく、災害時にも体力は必要であることを示しながら、今後の体力の向上についてより深く考えることができるよう配慮されている。
2内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○基礎的・基本的な内容の理解を図るために、どのような工夫が見られるか。	・その時間の終わりで「考えてみよう」に取り組んだり、章末の「確認の問題」や「活用の問題」に取り組んだりすることで、基礎的・基本的な学習内容が定着できるような工夫が見られる。	・その時間の終わりに重要語句をキーワードとして確認したり、章末の「学習のまとめ」に取り組んだりすることで、基礎的・基本的な学習内容が定着できるような工夫が見られる。	・学習の導入でキーワードを示したり、そのキーワードをはっきりとした太字で本文中に表したりしている。そして「Try」や「Challenge」に取り組むことで、基礎的・基本的な学習内容が定着するよう工夫が見られる。	・学習を通して身につけた知識等をいかし、「活用しよう」に取り組んだり、「章のまとめ」に取り組んだりすることで、基礎的・基本的な学習内容が定着するよう工夫が見られる。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○主体的な学習を促すために、学習課題の提示や学習資料にどのような工夫が見られるか。	・導入部の「やってみよう」では、自分の日常経験や小学校で学習したことなどをもとに課題に取り組めるように配慮されている。その後、導入部に関連した資料を提示するといった学習の流れを大切にすることで、主体的な学習を促すように配慮されている。	・「今日の学習課題」には、本時の学習内容が分かるように、端的な文章で具体的に示されている。そして、学習課題を解決するための資料が提示され、詳しく説明されている。章間や章末にも資料を提示することで、関心・意欲を高め、主体的な学習を促している。	・導入発問「Question」での問いかけが具体的である。さらに「コラム」や「事例」を提示することで、関心・意欲を高め、主体的な学習を促している。	・本時の学習の目標が明示されており、実生活に即したイラストや写真、科学的な理解を促す写真等を多用することで、興味・関心を高め主体的な学習が進められるよう工夫されている。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○発達の段階や個に応じた内容の取扱いについて、どのような工夫が見られるか。	・「考えてみよう」では、各自が身に付けた学習内容を活用して課題をまとめられるように工夫されている。また、章末の「学習のまとめ」では、学習の振り返りを行い、各自の生活に生かすまとめができるように工夫されている。	・詳しい説明のあるイラスト、グラフ、写真などがあり、個人でも学習が進められるような資料となっている。「学習を活かして」では、各自の実生活に役立つようなまとめができるように工夫されている。	・「Challenge」と「Topic」があり、身近な話題や健康課題から各自の学びを確かめたり発展させたりできるように工夫されている。	・「もっと広げる深める」「探求しよう」「資料」などが充実しているので、生徒一人一人の発展的な学習や個に応じた学習ができるように工夫されている。
3 構成・配列・分量	○主体的な学習を促すために、教材の構成・配列・内容の系統性にどのような工夫がみられるか。	・小中高等学校の学習内容を、各章の扉で明示することで、既習事項の確認と、中学校の学習の位置づけを明確にしようという工夫が見られる。 ・「やってみよう」で小学校の学習や自己の生活の振り返り等により興味・関心を高める導入を行い、「考えてみよう」で本文や資料で学んだ知識の活用を図り、「生かそう」で、自分の生活に取り入れたり、更に調べ学習を進めたりできるよう構成し、知識の定着と主体的な学習を促すような工夫が見られる。 ・1年の保健編・体育編、次に2年、3年の順で、学年ごとに配列している。	・「今日の学習課題」による課題の明確化、「考えよう」により身近な疑問から学習をスタートさせ、「本文・資料」で学んだことを、「学習を活かして」や章末の「学習のまとめ」により、知識の定着と思考力・判断力等が育成されるような構成上の工夫が見られる。 ・1～3年の体育編を先に、保健編を後に配列している。	・「Question」によって、身近な疑問から学習をスタートさせ、学習後半の「Try」、「活用」、「Challenge」などにより、知識を活用する能力や表現力が育成されるような構成上の工夫が見られる。 ・1～3年の体育編を先に、保健編を後に配列している。	・小中高等学校の学習内容を、各章の扉で明示することで、既習事項の確認と、中学校の学習の位置づけを明確にしようという工夫が見られる。 ・「ウォームアップ」で、経験や既習事項を生かして活動に入り、本文や資料で学んだことをもとに「エクササイズ」で考えたり、話し合ったり、調べたりする学習をすすめ、「活用しよう」で学んだ知識をさらに活用するなど、知識の定着と主体的な学習を促すような工夫が見られる。 ・保健編を学年順に配列し、次に体育編を学年順に配列している。
	○主体的な学習を促すために、文章、解説や例示、イラスト、写真等の取扱いや分量にどのような工夫が見られるか。	・イラストやグラフ等は「資料」という名称で統一され、数多く配置されている。これら資料は、本文の内容と明確に関連付けられ、本文の理解を促すような工夫が見られる。 ・「他教科マーク」「リンクマーク」により、関連する内容を調べやすくしたり、「読み物」「保健体育クイズ」により興味・関心を高めたりするなど、主体的な学習を促す工夫が見られる。	・学習すべき内容を、本文で端的に表現し、それを補足するグラフやイラスト等により興味・関心を高めている。 ・グラフやイラストには吹き出しが用いられ、理解を促しながら主体的な学習を導き出す工夫が見られる。	・「体育編」の口絵では、2020年の東京オリンピックや生涯スポーツへとつなげる写真、「保健編」の口絵では、命の誕生、自然災害、喫煙・飲酒・薬物乱用の悪影響等を明確にした写真が活用されて主体的な学習を促している。 ・図・グラフ・表は、本文の内容と明確に関連付けられ、本文の理解を促すような工夫が見られる。	・イラストや写真等は「資料」という名称で統一され、数多く配置されている。これら資料は、本文の内容と明確に関連付けられ、本文の理解を促すような工夫が見られる。 ・視覚的、科学的な視点を重視した写真や図解が多用され主体的な学習を促すような工夫がみられる。

項目	観点	教科書名			
		新しい保健体育(2・東書)	中学校保健体育(4・大日本)	保健体育(50・大修館)	中学保健体育(224・学研)
4 表記・表現	○主体的な学習を促すために、タイトルや学習課題、図やイラスト等の表し方、用語や記号等の表記にどのような工夫が見られるか。	・「タイトル」、「今日の学習」、「キーワード」を定型のデザインとして冒頭に配置した。これらを確認することにより、本時の学習内容が把握できるような工夫が見られる。 ・重要語句を太字のゴシック体で表現したり、ユニバーサルデザインフォントを採用したりするなど、見やすく読みまちがえにくい工夫がみられる。 ・「ポイント」マークやキャラクター「クール」「コール」を活用して学習のポイントやヒントを伝えるなど、理解を促す工夫が見られる。	・小單元ごとに基本色を定め、各タイトルをはじめ、資料タイトル等の色も統一するなど、内容ごとのまとまりが直感的にわかるような工夫が見られる。 ・重要語句を太字で表現したり、ふりがなにはユニバーサルデザインフォントを使用する等、理解しやすく見やすい表記上の工夫が見られる。	・本文に黄色の下地を敷いて、他の注釈や図表と区別することで、見やすい紙面を構成しようとする工夫が見られる。 ・図や表に黄色の吹き出しがあり、その資料から読みとるべきポイントが明示されている等、理解を促す工夫が見られる。	・課題解決的な学習を促すような「ウォームアップ」「エクササイズ」「活用しよう」等のマークを統一したデザインを採用し、重要語句を太字で表現したりするなど、学習者の主体的な学びを促すような表記上の工夫が数多く見られる。 ・本文を各ページの左側に配置したり、紙面全体をユニバーサルデザインに配慮するなど、学習者の学びやすさを第一に考えられている。
5 体裁・使用上の便宜	○装丁や体裁、目次や資料等の使用上の便宜について、どのように配慮されているか。	・人に感動や勇気を与えるスポーツの力やキャリア教育、食育等の視点をテーマにした口絵を掲載し、興味・関心を高める配慮がされている。 ・AB版サイズにすることでより多くの資料等掲載できるような工夫されている。	・各分野の3年間の学習内容が一目でわかる口絵を設けることで、学習に見通しをもち、主体的な学習を促す配慮がされている。 ・ワイド版サイズにすることで多くの資料等掲載できるような工夫されている。	・生涯スポーツへの道筋が一目でわかる口絵を掲載し、自分の将来のスポーツライフについて考えられる配慮がされている。 ・B版サイズにすることで他教科との統一性を図るとともに利便性にも配慮されている。	・日本各地の健康、安全、スポーツに関する施設や史跡、中学生期の食育について口絵で紹介し、幅広い知識と教養を身に付けようとする態度が養える配慮がされている。 ・B版サイズにすることで他教科との統一性を図るとともに利便性にも配慮されている。